



# サガハイマツト通信

Vol.25

(2019年10月号)

参加無料!

## サガハイマツトを一般公開します

期日 11月9日(土) 13:00～ ※最終受付は15:00まで

受付場所 サガハイマツト正面玄関  
(鳥栖市原古賀町3049番地) ※新鳥栖駅前

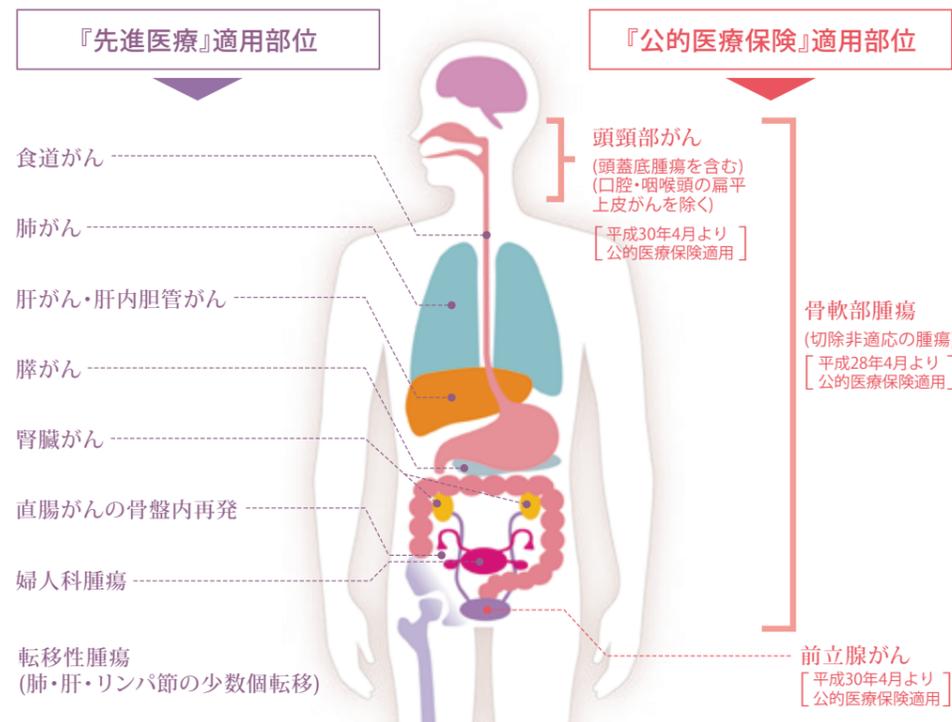
問い合わせ 佐賀国際重粒子線がん治療財団  
TEL 0942(81)1897

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

※診療や装置の状況、その他やむを得ない理由により、一般公開の一部又は全てを予告なく中止する場合があります。

### 【重粒子線がん治療の対象となるがん】

【対象部位】 重粒子線がん治療の対象となるのは、ひとつの部位に留まっている固形のがんです。



【治療の対象とならないがん】 □白血病のような血液のがん  
□広範な転移のあるがん  
□胃がん、大腸がんなど不規則に動く臓器のがん など

## SAGAHIMAT 治療実績報告号①



### 新 副センター長 ごあいさつ



九州国際重粒子線がん治療センター 副センター長 末藤 大明

この8月1日から副センター長に就任いたしました末藤大明です。  
当センターは、2013年8月26日に治療を開始し、7年目を迎えています。  
前立腺がん治療からスタートし、頭頸部、肺、肝臓、膵臓、骨軟部など多くのがんに対して、4,000名以上の患者さんへ治療を行ってまいりました。  
社会的にも重粒子線治療の安全性・有効性が認知されるに併せて、2016年からは骨軟部腫瘍、2018年からは前立腺がんと頭頸部がんの一部が公的保険の適用と認められてきました。  
九州を中心とした医療機関と連携しながら、質の高い医療を提供するとともに、より多くの疾患が公的医療保険の適応となるよう引き続き努力いたします。また、一人一人の患者さんごとに、最も適切ながん治療方法について提案し、より良い治療を受けることができるよう尽力します。

### ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお祈りいたします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

### サガハイマツト通信 Vol.25

(2019年10月号)

【お問い合わせ】 \_\_\_\_\_  
発行 ■公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村  
所在地 ■〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地  
TEL ■0942(81)1897 FAX ■0942(81)1905  
HP ■http://www.saga-himat.jp/



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

### サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812 (受付時間:平日の9時~17時)  
メール saga-himat@saga-himat.jp

# 重粒子線治療成果報告

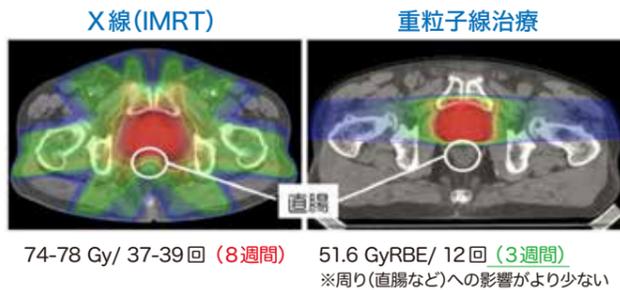
## 今号は 前立腺がん

サガハイマツでは、2018年11月に佐賀市内において「重粒子がん治療を語る～治療開始から5年～」と称して、これまでの治療実績を報告するフォーラムを開催いたしました。そのフォーラムの内容を取りまとめ報告書を作成いたしました。  
今号は、その成果報告書から一部抜粋して、皆さんへご報告したいと思います。

### 概要

前立腺がんの治療開発経緯については、先行施設で線量を徐々に増やしながら安全性を確認する試験が主体として行われた後に照射回数を減らす試みがなされ、現在では全重粒子線施設で12回照射治療を統一して行っている。  
前立腺がんにおける重粒子線治療の利点は、通常の放射線治療で用いられるX線(IMRT)と比べても直腸への放射線線量が少ないというのが一番大きな特徴である。もう一つの特徴としては、治療の期間が短いことが挙げられる。

#### 【エックス線治療と重粒子線】



X線(IMRT)と比較した場合、重粒子線治療は高い治療効果が期待できる。また、副作用の頻度・程度が少なく、治療期間が短いことがメリットであろう。ただし、重粒子線治療がん治療施設は全国で6箇所と治療施設に限られているという点で、地域によっては受診しづらい状況であるかもしれない。

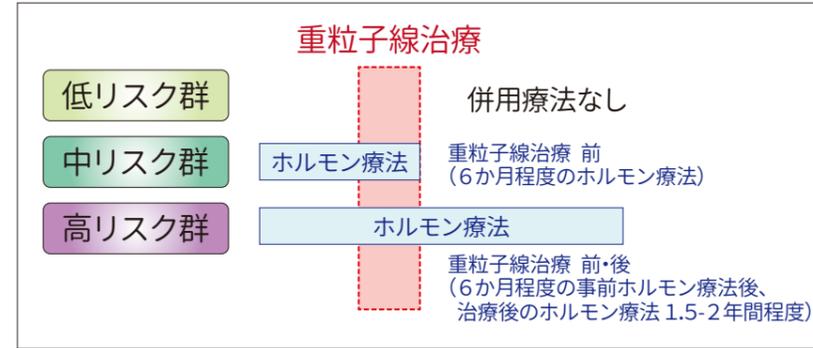
### 治療

重粒子線治療と手術と比較した場合、重粒子線治療は切らない治療となるので、麻酔を使用しない為、体に負担が少ないのがこの治療の大きな特徴と言える。  
手術の場合、尿漏れという副作用があるが、重粒子線治療では少ないのが特徴であろう。

#### 【重粒子線治療の特徴】

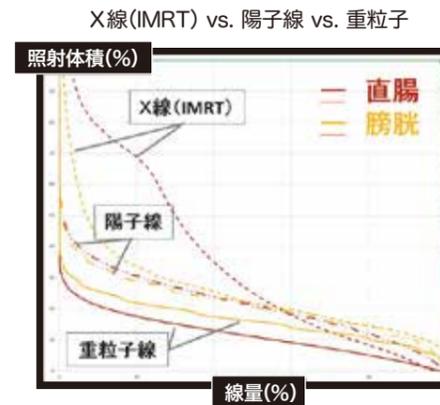
	手術と比較	X線(IMRT)と比較
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院での治療が可能</li> <li>身体的な負担は少ない →手術困難症例・合併症症例に向いている</li> <li>尿漏れ等の副作用は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より高い治療効果</li> <li>副作用の頻度程度が少ない</li> <li>治療時間が短い</li> </ul>

#### 【治療の概要】



治療の概要を大きく3つのグループに分けると、低リスク群(ホルモン療法を行わない方)、中リスク群(ホルモン療法を半年間)、高リスク群(ホルモン療法を2年間程度行う)と症例の状態に分けることになる。

### 副作用



#### 【放射線の種類別 照射体積と線量の比較表】

左記の図が直腸と膀胱への放射線の当たり具合を確認した研究で、やはりX線、陽子線と比べると重粒子線が一番少ないということが示されており、これが副作用の少ない理由である。

重粒子線治療の副作用で、強い副作用が出た方は腸の副作用で見ると1%前後、他の副作用でも5%程度である。  
重粒子線治療のQOL(生活の質)がよい理由は、ベースに治療効果が高く、副作用が少ないことが要因であろう。  
重粒子線治療の長所は、腫瘍に集中的に照射が出来ることである。前立腺がんの細胞は、1回の照射量を少し多めにすると効果が高いことがわかっており、回数を減らし、効果を高めていることが、良い結果に結びついているのであろう。  
現在、X線治療と比較し、重粒子線治療がどの程度治療成績が良いかを検証するために、高リスク群を対象とし、臨床試験を進めているところである。

### 評価

当センターの治療成績は、重粒子線治療における先行施設の臨床試験や多施設の集計と比較しても遜色はない。従来のX線(IMRT)と比較しても、副作用が少なく、治療成績も良好であると考えている。  
特に高リスク群においては、X線治療よりも高い治療成績が期待されることから現在、多施設前向き臨床試験で検証中である。  
まとめとなるが、重粒子線治療は、他の手術や小線源治療と異なり、入院や麻酔が不要で、身体的な負担がとても少ない治療である。X線(IMRT)と比較しても、治療効果は良好で副作用が少なく、治療回数も少ないことから、日常生活や生活の質への影響が少ない治療と考えている。

成果報告書につきましては、当センターHPからご覧いただけます。  
他の部位につきましては、次号以降にてご報告する予定です。